

「紙の価値」を発信する祭典 「ペーパーサミットジャパン」

～日印産連、造本コンクール・カタログ・カレンダー展の

全日本印刷工業組合連合会(全印工連)と日本洋紙板紙卸商業組合は、7月24日・25日の2日間、東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)において、紙と印刷の祭典「ペーパーサミットジャパン2026」を開催しました。日本印刷産業連合会(日印産連)は本イベントを後援するとともに、造本装幀コンクールおよび全国カタログ展・全国カレンダー展の受賞作品を展示し、印刷物の価値と魅力を広く発信しました。

「ペーパーサミットジャパン」は、「紙のある暮らしをもっと豊かに 一紙とどこまでも一」をコンセプトに

掲げ、紙をつくる人、届ける人、使う人をつなぎながら、紙と印刷の魅力や新たな可能性を体感できるイベントとして開催されました。大阪で開催されてきた「ペーパーサミット」を全国規模へ発展させたもので、全印工連が推進する「紙の価値の啓発活動」の中核事業として位置付けられています。

会場は「MARKET」「TALK」「GALLERY」「FACTORY」の4つのエリアで構成され、全国の印刷会社やクリエイターによるオリジナル商品の展示・販売、紙加工や印刷技術を体験できるワークショップ、紙の可能性をテーマとしたトークセッションなど、多彩な企画が展開されました。デジタル化が進展する社会においても、紙ならではの手触りや温もり、情報を伝える力、創造性を再認識する機会となり、多くの来場者で賑わいました。

日印産連はGALLERYエリアにおいて、造本装幀コンクールの受賞作品に加え、全国カタログ展および全国カレンダー展の受賞作品を展示しました。優



2026」に出展

受賞作品を展示～



れた製本・印刷・加工技術やデザイン性を備えた作品の数々は、多くの来場者が足を止めて見入る姿が見られ、印刷産業が生み出す高い技術力と表現力を広く発信する機会となりました。

また、同会場では「MUD FAIR 2026」も同時開催され、紙や印刷を切り口とした幅広い展示・交流が行われました。2日間の来場者数は4,125人に上り、東京で初開催となった今回のイベントは大きな



盛況を見せました。

紙と印刷は、情報を伝えるだけでなく、人と人をつなぎ、新たな価値を創造する重要な役割を担っています。今回、ペーパーサミットジャパンに参加し、紙や印刷の魅力を改めて発信するとともに、関係団体との連携を深める有意義な機会となりました。日印産連では、今後もこうした活動への参加を通じて、関係団体との連携を図りながら、紙と印刷の価値や印刷産業の魅力を発信していきます。

